

東京発
ふるさと人

パソコンを改造して能力を高める「オーバークロック」。中央演算処理装置（CPU）を定格を上回る周波数で稼働させることなどにより、処理速度を引き上げる。動作の不安定化や故障のリスクも伴う「裏技」。その第一人者として、専門誌への寄稿や実演イベントなどで活躍する。

知識はもとより経験がものをいう世界。極低温まで冷却できる液体窒素を用いつつ、周波数や電圧などの設定を変更してはパソコンの処理能力を調べ、最

オーバークロッカー

しみず たかひろ
清水 貴裕さん(31)



適値を探る。試行錯誤の繰り返しだが「狙った通りの成果が得られた瞬間がたまらない」という。

総社市出身。一時は総社高か

クに足を踏み入れた。

この道でも「やるからには、これで飯を食う」。就職せずにひたすら腕を磨き、処理能力の世界記録を打ち立てるまでになった。実績を買われて2016年からはパソコンパーツの販売会社に課長として迎えられ、製品開発も手掛ける。

世界では多くの大会が開かれている分野。競技者としてトップの夢を追いながら、初心者向け講習会などで裾野拡大にも取り組む。

「一人の自作パソコン愛好家として、もっと多くの人に気軽に楽しんでもらいたい」

千葉市の自宅で妻、5匹の愛猫と暮らす。（松原悠）

から続けていたドラムでプロを目指すなど、のめり込む性分だ。川崎医療福祉大4年の時、パソコンの動作に不満を覚えて自作したのを機に、オーバークロック

パソコン改造の第一人者